



細長い角柱状に作り替えられた木簡

二条大路木簡の中には、二次的に整形して長さ八cm強、幅・厚さとも五mm程という、細長い角柱状にした木簡がいくつか含まれている。ここでそのうちの三点を紹介する（すべてこれまで報告されていないものである）。いずれも文字は二次的整形によつて欠損している。ほぼ同形であることから、何らかの規格に基づいて作られたとみられる。これらの木簡の用途については、算木ではないかとの推測も出されており（本誌掲載の鈴木景一論文参照）、興味深いところである。

- (1) □ 物部牛養 □

- 2)

- (2)

- (3)

(1)はSD五三一〇、(2)(3)はSD五三〇〇からの出土で、いずれも  
一条大路の北側路肩に掘られた濠状遺構

(渡辺晃宏)

82X5X6 011

87×8×8 011